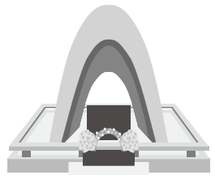
平和への思いを世界中の人々に伝えたい



川越町は、昭和63年に非核平和都市宣言を行いました。

今年も核兵器による戦争の悲惨さを後世に伝えるため、広島市を訪れ、非核平和の啓発事業を実施しました。

参加者は、川越南小学校の鈴石剛琉（すずいしごうる）さん、日美玲花（ひみれいか）さん、近藤涼（こんどうりょう）さん、また、町民代表として早川宣子（はやかわのりこ）さんです。帰町後、小学生のみなさんに感想文を書いていただきましたので紹介します。

平和記念公園と原爆ドーム、平和記念資料館を見て

鈴石　剛琉

ぼくは、８月１日に平和記念公園と原爆ドーム、平和記念資料館に行ってきました。

まず平和記念資料館を見学しました。

そこでは人影の石や原子爆だんなどの残がいがおいてありました。人影の石というのは人が階段で座っていたところに爆風が来て人が飛ばされた時に人が座っていたところだけ黒くなった様です。原子爆だんはウラニウム爆だんで直径71センチ、長さ３・05メートル、重さ約４トン、火薬２万トンに相当し「リトルボーイ」と命名されました。平和記念資料館を見学して、人影の石は、爆風の威力がどれだけすごいものだったかを痛感しました。

次に平和記念公園を見学しました。ここでは原爆死没者慰霊碑があり、たくさんの花や折り鶴がおいてありました。石碑には「安らかに眠ってください　過ちは繰返しませぬから」と刻まれていました。この石碑には二度とこのようなことが起こらないようにとの願いが込められているとを伝える記念碑です。ユネスコの世界遺産に登録されており二度と同じ悲劇が起こらないようにとの願いをこめて、特に負の世界遺産と呼ばれています。ぼくは原爆ドームを見て、ドーム状の鉄枠が残る姿に疑問を感じました。家で調べた結果、衝撃波を受けた方向がほぼ直上からであったこと、窓が多かったことにより、爆風が窓から吹き抜ける条件が整ったこと、ドーム部分だけは建物本体部分と異なり、屋根の構成材が銅版であったこと、この３つが理由だとわかりました。原爆ドームを見て、今がどれだけ幸せなのかと思いました。

右から日美さん、近藤さん、鈴石さん

そして、原爆は、本当に恐ろしくて、二度と起きてはならないもので、これから先の幸せな未来のためにもこのような記念碑はずっと受け継いでいかなくてはならないと感じました。

非核平和都市宣言啓発事業に参加して

日美　玲花

私は、８月１日非核平和都市宣言啓発事業に参加し、生まれて初めて広島の平和記念公園・資料館・原爆ドームへ行きました。資料館に行くまでは、戦争について、学校の図書館で「はだしのゲン」を読んだり、映画「火垂るの墓」を見たくらいの浅い知識しかありませんでした。広島について、まず乗ったのが初めて見る市電でした。68年前のこの場所に原爆が投下されたとは思えないくらい、今は町もきれいになり整備されていてびっくりしました。

資料館で、すごく印象的だったのは、皮膚をたらした骨が見える人形でした。火傷でただれた両うでを前につきだし、ボロボロの服でがれきの中をさまよう姿があまりにも残酷でグッと涙があふれました。指もパーに広げていないとくっついてしまうのだと聞き原爆の恐ろしさを痛感しました。丸こげの弁当箱や原爆投下をさす８時15分のうで時計、爆風により無数のガラスがくいこんだ瓦屋根、やけこげた三輪車など、私の想像を超えるものが、次から次へ展示されており、言葉をなくしてしまいました。

私は、12年前のアメリカ同時多発テロ９・11の前日、戦争のない平和なこの日本に生まれました。母は、出産を終え病室で初めて見た映像がセンタービルに飛行機がつっこむところで、ショックをうけたそうです。ＴＶの前で無事に生まれた私に感謝しつつ、戦争を世界中からなくして欲しいと強く願ったといいます。昭和20年８月６日広島へおちた原子爆弾によって、多くの人々の命が一瞬にしてうばわれました。なのに今でも世界の国々では多くの戦争や紛争が起きています。戦争によって大事な家族や愛する人の命がうばわれることがわかっているのになぜなくならないのでしょうか。

私達にできることは、苦しみや悲しみを乗りこえてきた多くの被爆者たちの願いをかなえ、核兵器を持たない、戦争をしない、させない、そして忘れない事。平和への思いを世界中の人々に伝えつづけ、この思いを共有し、仲よくする事が大事だと思います。そして「戦争をしない国」を世界中に増やしていくべきだと考えます。

広島の平和記念資料館に行って

近藤　涼

８月１日、私は同級生２人と大人２人の５人で広島の平和記念資料館に行きました。

今回参加したいと思った理由は、新幹線に乗って、家族以外の人と出かけてみたかったからです。

広島で路面電車に乗りながら外を見ると、屋根のない骨組みだけの建物が見えました。後で分かりましたが、原爆ドームと呼ばれる、原爆の爆風でこわれた銀行でした。

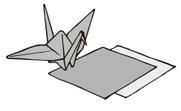
平和記念資料館の中に入って最初に目に入ったのは、原爆が投下され被害にあった建物や人の映像でした。一番ショックだったのは、今私が立っているところが原爆が投下された場所だったことです。

その次に目に入ったのは、原爆が落とされる前と後の、広島の町並みの模型でした。たった一つの原爆でこんなことが起きるのかと驚き、どうして小さな子供から年寄りまでたくさんの人達が殺されなければいけなかったのかと悲しくなりました。

私は旅行気分で参加しましたが、過去に原爆が広島に落とされ、多くの人が亡くなり、今でも原爆症の被害で苦しんでいる人がいるということを教わり、旅行気分はふきとびました。帰ってから、家族に広島でのことを話したら、ひいおじいちゃんが広島県呉市で兵隊だったことをお父さんが話してくれました。

戦争が身近にあったことにびっくりしました。人と人が殺しあう戦争が無くなればいいと思いますが、今でも地球のどこかで戦争が行われています。私には戦争をなくすことは難しいですが、今回広島に行って見たことや思ったことを家族や友人に伝えることはできます。

私が大人になったら、自分の子供に、今回のことを話していきたいと思いました。



川越町戦没者追悼式のご案内

日時　10月26日㈯
午前10時30分 開式

場所　あいあいホール

川越町では、先の大戦において亡くなられた方に対し、町民ひとしく哀悼の誠を捧げ、あわせてそのご冥福と平和を祈念するため、「川越町戦没者追悼式」を挙行します。

式典には戦没者のご遺族のほか、町内在住のどなたでもご参列いただけますので、ぜひご参列をお願いします。

【問い合わせ先】

福祉課　℡３６６・７１１６